

ウステキヌマブBS皮下注45mgシリンジ「ニプロ」の  
治療を受けられる患者さんへ

# 乾癬治療について



監修

大阪公立大学大学院  
医学研究科 皮膚病態学  
教授 **鶴田 大輔** 先生

ウステキヌマブBS皮下注45mgシリンジ「ニプロ」は生物学的  
製剤のひとつで、乾癬の治療薬です。

この冊子では、乾癬について、また、ウステキヌマブBS皮下注  
45mgシリンジ「ニプロ」の投与スケジュールや、副作用について  
紹介しています。

ご自身の治療の参考に、ぜひお役立てください。

## 目次



乾癬について	2
ウステキヌマブBS皮下注45mgシリンジ「ニプロ」について	
バイオシミラー（バイオ後続品）とは	3
投与前に確認すること	4
投与スケジュール	5
投与中に気をつけること	6
副作用について	7
副作用への対処	8
日常生活で気をつけたいこと	9
メモ	10

# 乾癬について

乾癬とは、皮膚炎症症状を伴う慢性の疾患です。日本国内の患者数は約43～56万人<sup>1, 2)</sup>とされ、女性よりも男性が多い<sup>3)</sup>ことが知られています。

## ●乾癬の症状<sup>4)</sup>

主に、銀白色のかさぶたのような鱗屑や、盛り上がった紅い発疹の紅斑が皮膚表面にあらわれ、さらに、約5割の患者さんにかゆみがみられます。

## ●乾癬の種類<sup>4)</sup>

### ●尋常性乾癬

鱗屑や紅斑、かゆみの症状があらわれ、乾癬患者さんの約9割を占めています。

### ●乾癬性関節炎

皮膚症状とともに爪の変形や関節炎を伴います。

背中や首・腰に痛みがあらわれることもあります。

### ●乾癬性紅皮症

皮膚症状が全身におよびます。

### ●汎発性膿疱性乾癬

発熱、全身倦怠感を伴い全身の皮膚に赤みと膿疱が多発します。

発症部位(例)



▲尋常性乾癬



▲乾癬性関節炎



▲乾癬性関節炎

## ●乾癬の原因

乾癬の原因是、免疫異常もそのひとつとされていますが、まだ完全には分かっていません。乾癬になりやすい体質があり、それに環境因子(不規則な生活や食事、ストレス、肥満、感染症、特殊なお薬など)が加わると発症するともいわれています<sup>4)</sup>。

引用・参考 1) Kubota K, et al. BMJ Open. 2015; 5(1): e006450.

2) 照井正, 他. 臨床医薬. 2014; 30(3): 279-285.

3) Kamiya K, et al. J Dermatol. 2021; 48(6): 864-875.

4) 日本皮膚科学会ホームページ:皮膚科Q&A「乾癬」

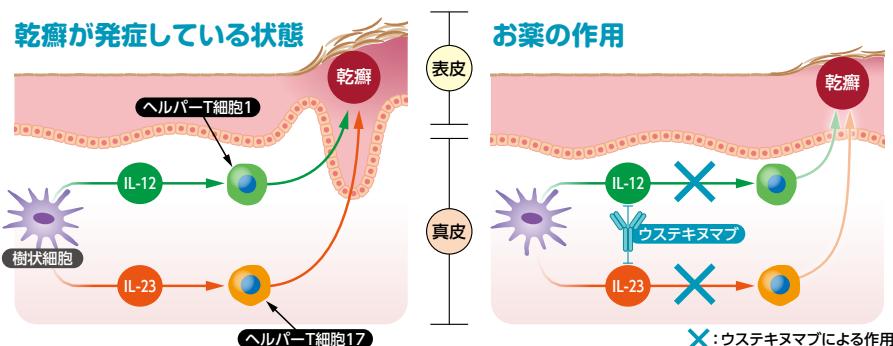
<https://qa.dermatol.or.jp/qa14/index.html>

(2025年10月3日閲覧)

# ウステキヌマブBS皮下注45mg シリンジ「ニプロ」について

乾癬では、インターロイキン(IL)-23、IL-12などのサイトカインが過剰に作られることにより、皮膚症状や関節症状が引き起こされると考えられています。ウステキヌマブBS皮下注45mgシリンジ「ニプロ」は、IL-23とIL-12のはたらきを抑えることで症状を改善するお薬です。

## ウステキヌマブBS皮下注45mgシリンジ「ニプロ」の作用機序(イメージ)



## ●バイオシミラー(バイオ後続品)とは<sup>5)</sup>

ウステキヌマブBS皮下注45mgシリンジ「ニプロ」は、バイオシミラーのひとつです。

バイオ医薬品とは、生物が持つタンパク質(ホルモン、酵素、抗体など)を遺伝子組換え技術や細胞培養技術といったバイオテクノロジーを応用して製造された医薬品のことを指します。バイオシミラーは、先行して承認・販売されているバイオ医薬品(先行品)とは異なる製造販売業者によって開発された後続の医薬品であり、品質特性や、有効性・安全性に関するさまざまな試験を行い、先行品との同等性／同質性が評価されたお薬です。

5) 厚生労働省医政局経済課:バイオ医薬品・バイオシミラーを正しく理解していただくために(医療関係者向け) 平成31年2月  
<https://www.mhlw.go.jp/content/001380077.pdf> (2025年10月3日閲覧)をもとに作成

# 投与前に確認すること

ウステキヌマブBS皮下注45mgシリンジ「ニプロ」は、以下のいずれかの条件を満たす、**尋常性乾癬**または**乾癬性関節炎**の患者さんに投与できるお薬です。

- 塗り薬や紫外線、飲み薬の治療では十分な効果が得られず、皮膚の症状が全身の10%（手のひら約10枚分）\*以上の方
- 治りにくい皮疹または関節症状がある方



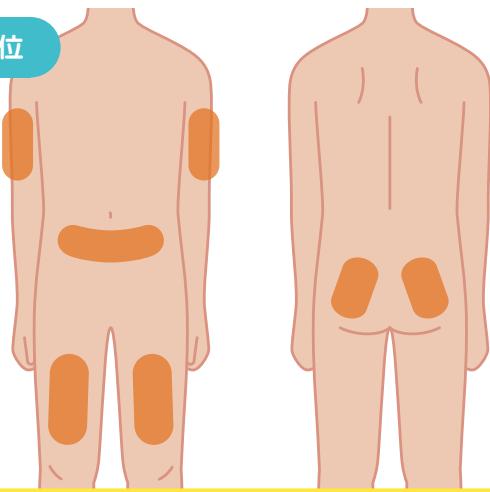
以下の項目に該当する方は、投与できない可能性があります。詳しくは主治医に相談してください。

- 病原菌・ウイルスなどによる重篤な感染症や結核、悪性腫瘍（がん）にかかっている、または、かかったことがある
- 過去にウステキヌマブを投与して、アレルギー症状が出たことがある
- アレルゲン免疫療法を受けたことがある
- 現在妊娠中または授乳中である

# 投与スケジュール

このお薬は、上腕・おなか・太もも・おしりのいずれかに注射します。

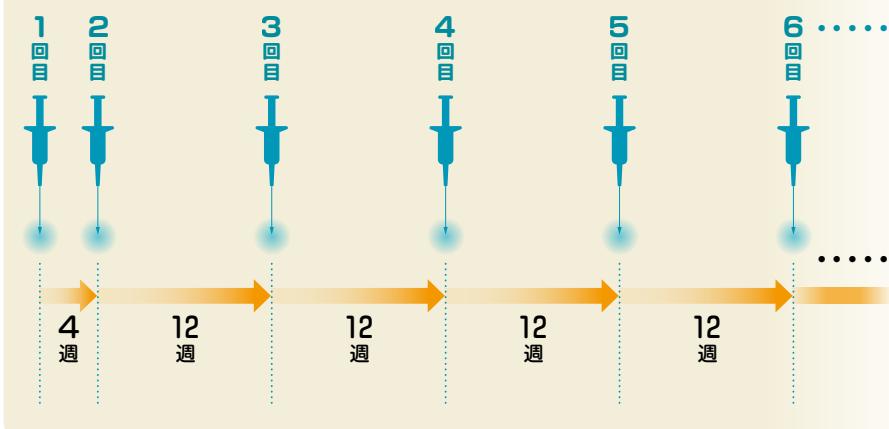
## お薬の注射部位



注射部位は主治医の指示に従いましょう

1回目の投与の後、2回目は4週後(約1ヵ月後)に投与し、3回目以降は12週間隔(約3ヵ月おき)で注射を行います。

## 投与スケジュール



# 投与中に気をつけること

このお薬は、体内で免疫の一部のはたらきを抑える作用があります。そのため治療中は、投与していないときよりも、病原菌やウイルスなどへの抵抗力が弱くなる可能性があります。

## ● 感染症への対策

- かぜ、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症などの感染症を予防するために、外から帰ったら手洗い・うがいをしましょう。
- 感染症予防のため、ワクチンの接種を受けることが望ましいです。ただし、BCG、麻疹（はしか）、風疹、みずぼうそう、おたふくかぜ、帯状疱疹などの**生ワクチンの接種は避けてください**。接種については、主治医に相談してください。



## ● そのほかの注意点

- このお薬を注射した当日は、注射部位への刺激は避けてください。
- 妊娠・授乳を希望される方は、主治医に相談してください。



# 副作用について

このお薬では、投与後に以下のような副作用があらわれることがあります。少しでも気になる症状があるときは、必ず主治医に相談してください。

## ●主な副作用



### ●かぜ症状：

のどが痛い、咳がでる、寒気がする、頭痛がする、熱がでる など

### ●アレルギー症状：発疹(じんましんなど)、かゆみ など

### ●全身症状：疲れやすい、体がだるい、関節の痛み など

### ●注射部位反応：赤み、腫れ など

### ●恶心・嘔吐

## ●重い副作用

以下のような重い副作用があらわれることがあります。症状がみられた場合はすぐに主治医に連絡をしてください。

### ●アナフィラキシー(発疹、じんましん、息苦しさなど)

### ●重い感染症(胃腸炎、肺炎、尿路感染など)

### ●結核

### ●間質性肺炎(咳、呼吸困難、発熱など)

# 副作用への対処

## ● アナフィラキシーが起こった場合<sup>6)</sup>

アナフィラキシーとは、食物や医薬品などによる過敏反応が複数の臓器に同時にあるいは急激に出現することです。医薬品によるものは、多くの場合、投与後30分以内にアレルギー症状があらわれます。発疹、じんましん、腹痛などのほか、息苦しさといった呼吸器症状や、意識障害などがあらわれた場合には、ためらわずに救急車を呼び、すみやかに医療機関を受診しましょう。

## ● 発熱や咳、息苦しさがあらわれた場合

重い感染症にかかっていないかどうかを検査・診断するため、すぐに主治医に相談してください。治療すべき感染症の場合は、回復するまでこのお薬の投与を中止し、感染症の治療を行います。

## ● 結核を疑う症状があらわれた場合

結核を発症したり、過去に感染した結核が再びあらわれたりすることがあります。持続する咳・体重減少・発熱などの症状があらわれた場合は、すぐに主治医に連絡しましょう。

副作用はいち早く見つけて対応することが重要です。定期的に検査を受け、少しでもおかしいなと感じたら、必ず主治医に相談しましょう。



参考 6)厚生労働省:重篤副作用疾患別対応マニュアル アナフィラキシー 平成20年3月(令和元年9月改定)  
<https://www.mhlw.go.jp/topics/2006/11/tp1122-1h.html>(2025年10月3日閲覧)

# 日常生活で気をつけたいこと

## ●皮膚の保護

皮膚をひっかいたり、傷つけたりして、乾癬を悪化させないようにしましょう。爪を短く切る、ヒゲの深剃りをしない、身体を強くこすらないなど、皮膚への刺激ができるだけ減らしましょう。

また、皮膚は乾燥すると刺激を受けやすくなりまます。特に冬場は加湿器などで湿度を保ち乾燥を防ぎましょう。



## ●食生活

カロリーのとりすぎや肥満は乾癬の悪化につながることがあります。食べすぎに注意し、栄養バランスのとれた食事と規則正しい食生活を心がけましょう。



## ●禁煙

タバコに含まれる物質は、乾癬を悪化させる要因だといわれています。乾癬の治療とともに禁煙も心がけましょう。

## ●ストレスの発散と休養

ストレスの増加は乾癬悪化の要因だとされています。趣味や運動など、気分転換をしてストレスを発散しましょう。また、十分な睡眠も大切です。



# MEMO

▶本冊子の内容をまとめた動画を、  
こちらの二次元コードからご覧  
いただくことができます。



医療機関名